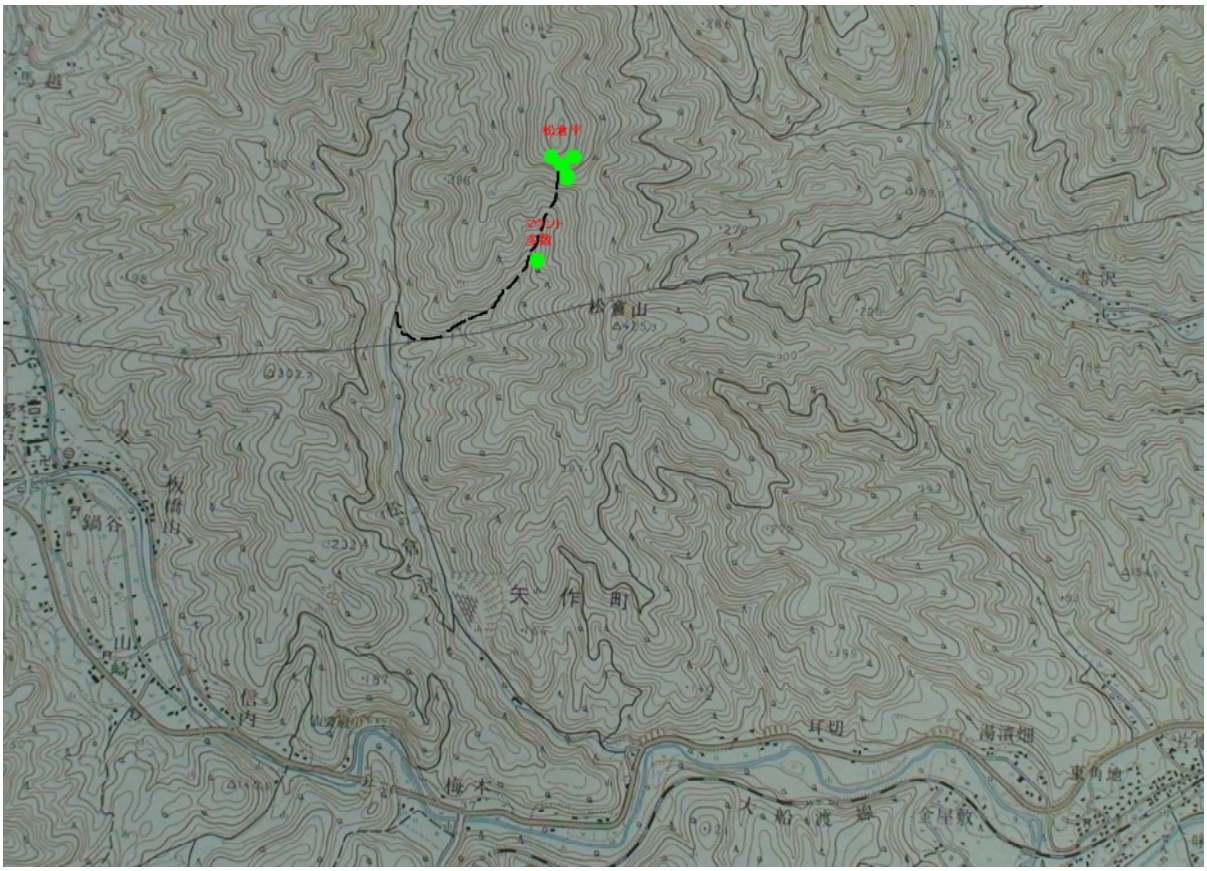
（６２）太子（たいし）鉱山跡

参考文献（１）を手引きに探査に向かった。参考文献（１）には岩手県の各鉱山（約１１６鉱山）について、沿革、概要、地形図、地質図、鉱山図、生産量等々、詳細な解説がなされている。ここで特に鉱山位置の地形図を再掲載する必要がないようにも思われる。参考文献の出版年は２００３年と極めて新しい。が、復刻版のように思われる。各鉱山に関して行った、調査、資料などの収集時期は、文献を読めば直ぐわかるが、数十年以上も前のことである。その後の時間の流れと共に、多くの鉱山跡でもそうであるが、現地は昔と今では似ても似つかない場合が多い。現在（２０１０年）に、現地に達するための手引きとなればと思って、地形図を掲載する。参考文献（１）を携えながら、十分時間を掛けて現地を探査すれば、色々なものが再発見できるのではなかろうか。

一関から３４３号を陸前高田市に向かって東進していく。矢作（やはぎ）町に入って、梅木地区で、矢作川の支流の松倉沢に入っていく。立派な林道が北に延びている。林道入り口から約２ｋｍの所で、上空で送電線が沢を横切っている。その少し先の右側に、林道の支線が伸びている。地形図中に破線で示している林道である。オフロード車ならば、大分上まで登っていけるが、Ｕターンの事を考えて、適当な箇所で停車した方がよい。そして歩いて行こう。



黄緑色は坑口跡。これら以外に多数あり。

地図　　国土地理院２万５千分の１地形図「今泉」
探査日　　２０１０年６月
所在地　　岩手県陸前高田市矢作町字梅木
鉱種　　金、銀、タングステン他
参考文献
（１）「新岩手県鉱山誌」、高橋　維一郎、南部　松夫、東北大学出版、２００３年。

鉱山跡写真

３４３号から松倉沢林道への入り口。東から西の方を見て撮影。左折道路が３４３号。直進の細い道が林道入口。

林道途中の右側に見つけた坑口跡。地形図中の下の黄緑丸位置。

林道を更に進むと、多数のマウントがあった。これより先には明瞭な道がなかったので、松倉平を目指して直登していった。

松倉平直下には多数の坑口跡。その１つ。

そして、山腹には巨大な露天掘りの後があった。参考文献（１）の通りであった。

採集鉱物写真

初めての箇所であり、採集のための時間がなかったこと等から、それはと思うような採集品は無し。次回以降に期待したい。